シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	サロンマナーⅠ		
必修選択	必修	（学則表記）	サロンマナーⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	サービス接遇検定公式テキスト３級 サービス接遇検定実問題集３級 就職ハンドブック		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを身につける		
到達目標	サービス接遇検定３級に合格する。 美容の現場で敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのマナーを身につける。		
評価基準	テスト50％、課題・提出物30％　授業態度等20％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	サービス接遇検定3級		
関連科目	就職対策		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	廣田　亜弥	実務経験	○
実務内容	客室乗務員として約20年間勤務。その後、総合病院の病棟クラーク、結婚式場やホテルでの受付・クローク業務など幅広くサービス業に従事した経験を活かし、社会人としての考え方やマナーを身につけさせる授業を展開する		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ビジネスマナーとは	授業の目的・到達目標について ビジネスマナーを学ぶ意味を知る
2	サービススタッフの資質	サービス業界で求められているものについて
3	サービススタッフの資質	必要とされる要件の復習・従業要件について
4	専門知識・一般知識	サービス知識、従業知識、一般知識について
5	対人技能（敬語）①	様々な接遇用語・敬語について

6	対人技能（敬語）②	尊敬語・謙譲語・二重敬語について
7	対人技能（一般的なマナー）	動作を行う際の基本・ポイントについて
8	対人技能①	人間関係について
9	対人技能②	一般的なマナー・接遇者としてのマナーについて
10	対人技能③	話し方について
11	実務技能①	問題処理について
12	実務技能②	環境整備・金品管理について
13	社交業務	社交儀礼の業務について
14	総復習	1～13回までの総復習
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	カラーコーディネートⅠ		
必修選択	必修	(学則表記)	カラーコーディネートⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	新配色カード パーソナルカラーコーディネート検定テキスト パーソナルカラーコーディネート検定課題集		出版社	日本色研事業(株) クリエスクール	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	色に関する知識、法則、技法を理解する。
到達目標	パーソナルカラーコーディネート検定に合格する。 美容の現場で色に関して適切な提案ができるようになる。
評価基準	テスト50%、提出物30%　授業態度等20%
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	パーソナルカラーコーディネート検定
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	池田　祐子
実務経験	○
実務内容	CLE協会認定講師歴14年、カラー講座やカラー診断士育成に務めてきた経験を活かし、色の知識をパーソナルカラーに結びつけ、自他の個性を知ってもらい、色を通して人への関心を深める力を養いながら、検定合格を目指し、美容の現場で色に関して適切な提案をできるようにすろ。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	パーソナルカラーとは、色の連想	授業の目的・到達目標について パーソナルカラーを学ぶ意味を知る
2	色の心理的効果	色の持つイメージと性質、色の心理的効果について
3	色と光について①	色の見える仕組み、光について

4	色と光について②	眼（視覚）のしくみについて
5	色の特徴について①	無彩色と有彩色、三属性について、色相環の作成
6	色の特徴について②	三属性について、色相環・トーン図の作成
7	色の特徴について③	トーンについて
8	配色（色相、トーン）	配色、色相、トーンについて
9	配色（配色の応用、イメージ配色　他）	配色の応用編について 条件にあった配色をつくる
10	対比と同化	対比と同化について
11	混色・慣用色名	混色の原理・慣用色名について
12	パーソナルカラーの基礎①	パーソナルカラーの基礎について
13	パーソナルカラーの基礎② 復習	各シーズンの特徴について、復習
14	総復習	１～１３回までの総復習
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	必修	（学則表記）	未来デザインプログラムⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	7つの習慣Ｊテキスト、夢のスケッチブック		出版社	（株）FCエデュケーション	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する
到達目標	・「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する ・他者へのリーダーシップを醸成し、主体性を発揮できる様になる
評価基準	小テスト／レポート：２０％　授業態度：４０％　　提出物：４０％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	なし
関連科目	キャリア支援／就職対策等
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	武井　亮子
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	未来デザインプログラム授業への価値付けを行い、日誌を書くことの意味や今日から実行できる機会を考える
2	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの概念を知り、自分制限パラダイムを取り払った状態で行動が継続できる様に考える
3	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解すると共に、自分自身への約束を守る大切さを学ぶ
4	刺激と反応	刺激と反応の考え方を理解し、どの様な状況でも一時停止ボタンを使い主体的に判断・行動していくことの大切さを考える
5	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
6	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にし、今自分がやるべき事、考えるべき事を優先順位を考えながら整理していく大切さを学ぶ
7	選んだ道と選ばなかった道	自分の選択は自分の気持ち次第であり、自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ

8	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
9	人生のビジョン	１０年後のなりたい自分を考えることにより、入学時に考えた「卒業時の姿」をより具体的に考える
10	自分の価値観を知る	なりたい姿を鮮明にすることの大切さを知り、自分の価値観を深堀りすることで、将来のなりたい姿を具体的にイメージできるプロセスを学ぶ
11	大切なこととは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」は、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ。自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第２領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	主に私的成功の習慣（前期授業内容）の復習（知識確認）
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	デッサン・イラストレーション		
必修選択	選択	(学則表記)	デッサン・イラストレーション		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	スケッチブック　鉛筆（H　HB　B　２B　３B） 練りゴム　カッター　30cm定規　色鉛筆		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	観察力と洞察力を養い芸術を理解する
到達目標	基本的な形・人体を描くことで人体の理解ができるようになっている。 エステやネイル、メイクやヘアのデザインを理解できるようになっている。
評価基準	テスト40%、提出物40%　授業態度等20%
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	両岡　健太
実務経験	○
実務内容	基本的な形・人体を描くこと、人体の理解ができる授業を展開する。絵画教室、カルチャー教室での絵画指導の経験をもとに絵画、デッサンの技術を習得させる。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	デッサンとは 鉛筆の基本的な使い方	デッサンの必要性について 用具使用方法と鉛筆の削り方、グラデーション練習
2	基本的な形態の描き方	基本的な形の描き方について
3	人体の描き方①	パーツの描き方について
4	人体の描き方②	顔と髪型の描き方について
5	人体の描き方③	人体の書き方について

6	基本的な形態の描き方（色彩）	色相・彩度・明度を混色で理解する、グラデーション練習
7	色彩実験とグラデーション練習	着彩について
8	模写と着彩	デザインを考案し着彩する
9	平面構成①	コラージュやデザインなどいろいろな表現方法、技法について
10	平面構成②	コラージュやデザインなどいろいろな表現方法、技法について
11	平面構成③	コラージュやデザインなどいろいろな表現方法、技法について
12	作品制作①	これまでの学習を基本にヘアデザインや衣装等を含めてデザインを考案・作成
13	作品制作②	これまでの学習を基本にヘアデザインや衣装等を含めてデザインを考案・作成
14	作品制作③	これまでの学習を基本にヘアデザインや衣装等を含めてデザインを考案・作成
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	皮膚学Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	皮膚学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅰ・筆記用具・ノート		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	皮膚の働きのしくみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ ・皮膚の基礎知識 ・美容上大切な皮膚の６つの働き
到達目標	肌を美しく健康に保つためのスキンケアの方法をクライアントに提案することができる
評価基準	筆記試験50％・小テスト30％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン
関連科目	生理学Ⅰ・ベーシックエステⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	須藤　直美　　実務経験　○
実務内容	エステティックサロンにエステティシャンとして2年勤務した経験を基に、肌の基本知識について教授し、エステの実技に活かす授業を展開する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	皮膚学Ⅰオリエンテーション 皮膚の基礎知識　①	担当教員自己紹介・前期授業の方向付け、履修目標について解説 １．生体における皮膚の役割　２、皮膚の構造と働き（１）～（２）
2	皮膚の基礎知識　②	２、皮膚の構造と働き（２）（３）　肌理について
3	皮膚の基礎知識　③	２、皮膚の構造と働き（４）
4	皮膚の基礎知識　④	２、皮膚の構造と働き（５）皮脂腺・立毛筋
5	皮膚の基礎知識　⑤	２、皮膚の構造と働き（５）立毛筋（６）（７）
6	皮膚の基礎知識　まとめ 筆記テスト	成績評価①皮膚の基礎知識（断面図・名称）グループ
7	美容上大切な６つの働き　①	１、皮脂膜 ２、角質バリア
8	美容上大切な6つの働き　②	３、表皮ターンオーバー ４、メラノサイトの働き

9	美容上大切な6つの働き　③	５、毛細血管の働き　６、繊維芽細胞 ７、皮膚の働きのバランス　小テスト／テスト返却
10	皮膚の生理作用　①	皮膚の生理作用（１）～（６）保護・体温調節・分泌・吸収
11	皮膚の生理作用　②	皮膚の生理作用（７）～（９）ビタミンD合成・貯蔵・知覚／テスト対策
12	筆記テスト 肌の美しさを損ねる要因　①	成績評価②　筆記テスト 美容上大切な６つの働き　１、紫外線
13	肌の美しさを損ねる要因　②	２、寒気 ３、乾燥　４、加齢
14	肌の美しさを損ねる要因　③	５、女性のリズム　６、精神的ストレス　７、胃の不調 ８、生活習慣　　小テスト
15	総合授業	総合復習　まとめグループ 前期総復習（個人）

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	生理学Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	生理学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅰ・筆記用具・ノート		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する ・骨格系・筋系・神経系
到達目標	体を美しく健康に保つためのボディケアの方法をクライアントに提案することができる
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度(グループワークor課題作成)、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン
関連科目	皮膚学Ⅰ・ベーシックエステⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	須藤　直美　　実務経験　○
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして2年勤務した。この経験を基に、体を美しく健康に保つボディケアの方法をクライアントに提案できるよう、エステ全般の知識や技術の習得を目指した授業を展開する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	生理学Ⅰオリエンテーション 生命と適応進化の歴史	担当教員自己紹介・前期授業の方向付け、履修目標について解説 ①生命とは生命40億年／②はるかな旅/③生命の適応進化とエステティック
2	生命活動とホメオスタシス　1	ホメオスタシスの定義と発見　ホメオスタシスの実際　ホメオスタシスの具体例
3	生命活動とホメオスタシス　2	ホメオスタシスを制御する仕組み ホメオスタシスを乱すストレス
4	身体の基本　1	ホメオスタシスを乱すストレス １．身体の構成　小テスト
5	身体の基本　2	身体の構成 身体の設計図
6	身体の基本　3	身体を構成する物質／血液・物質運搬 筆記試験範囲まとめ／グループワークor課題作成(成績評価対象)
7	骨格系・筋系　1　・　筆記試験	成績評価①筆記試験　／　１．体区分 ２．骨格（１）①骨の役割
8	骨格系・筋系　2	２．骨格（１）②骨の構造と代謝　③関節　④骨格の構成（頭蓋骨・脊椎）

9	骨格系・筋系　3	２．骨格（１）④骨格の構成　（胸骨・上肢骨・下肢骨・骨盤）
10	骨格系・筋系　4	３．筋系（２）①筋肉の役割　②筋肉の種類③骨格筋 ④骨格筋の構成　⑤速筋と遅筋
11	骨格系・筋系　5	３．筋系（２）④骨格筋の構成　⑤速筋と遅筋 筆記試験範囲　まとめ　／　グループワークor課題作成(成績評価対象)
12	神経系　１　・　筆記試験	成績評価②　筆記試験 １．神経細胞　２．神経系の種類
13	神経系　2	３．中枢神経　（１）－（２）
14	神経系　3	３．中枢神経　（３）－（４）
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	栄養学Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	栄養学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅱ・筆記用具・ノート		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	人間の栄養素の必要量、食品成分、食料の消費と経済、食習慣、食品の栄養価、食事と健康を理解する ・５大栄養素　・栄養所要量・食物摂取とその消化吸収
到達目標	栄養学の基礎知識を理解し、食事と健康・５大栄養素・栄養所要量についてアドバイスができる
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	桐渕　圭子　／　実務経験：○
実務内容	エステティックサロンにエステティシャンとして3年勤務した経験を基に、エステティシャンとして必要な栄養学の知識を理解させる授業を展開する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	栄養学の基礎知識　５大栄養素　1	1．栄養素の種類 2．5大栄養素（1）炭水化物、脂質、たんぱく質、無機質、ビタミン
3	栄養学の基礎知識　５大栄養素　2	1．栄養素の種類 2．5大栄養素（2）蛋白質
4	栄養学の基礎知識　５大栄養素　3	2．5大栄養素（3）脂質
5	栄養学の基礎知識　５大栄養素　4	2．5大栄養素（4）糖質
6	栄養学の基礎知識　５大栄養素　5	2．5大栄養素（5）炭水化物
7	栄養学の基礎知識　５大栄養素　6	2．5大栄養素（6）無機質
8	栄養学の基礎知識　５大栄養素　7	2．5大栄養素（7）ビタミン

9	５大栄養素　まとめ	３．まとめ
10	筆記テスト	栄養素の種類・5大栄養素　成績評価①
11	栄養学の基礎知識　栄養価　1	１．栄養価
12	栄養学の基礎知識　栄養所要量　2	２．栄養所要量（１）基礎代謝
13	栄養学の基礎知識　まとめ	３．まとめ
14	栄養学の基礎知識　消化吸収	食物摂取とその消化吸収（１）（２）
15	筆記テスト	栄養価・栄養所要量・食物の消化吸収　成績評価②　総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	香粧品学Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	香粧品学Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅱ・筆記用具・ノート		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	化粧品の法律上の扱いや分類、取り扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。 ・化粧品概論・ネイル、メイク、ヘアケア化粧品・フレグランス・化粧品の原料
到達目標	化粧品の基礎知識を理解し、安全に使用することができる
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン
関連科目	ベーシックエステⅠ・ベーシックメイクⅠ・ベーシックネイルⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	須藤　直美　　実務経験　○
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして勤務歴2年の経験を活かし、化粧品やフレグランスの機能、原料の知識・技術の授業を展開する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	香粧品学Ⅰオリエンテーション	オリエンテーション
2	化粧品概論　1	化粧品・医薬部外品と薬機法
3	化粧品概論　2	化粧品の分類
4	化粧品概論　3	化粧品の品質と品質保証
5	化粧品概論　4	化粧品の取り扱い上の留意点
6	化粧品概論　5	まとめ
7	筆記試験	化粧品概論　成績評価①
8	メイクアップ化粧品　1	1．メイクアップ化粧品の目的と働き 2．ベースメイクアップ料　3．ポイントメイクアップ料

9	メイクアップ化粧品　2	着色料について
10	ネイル化粧品	1．ネイル化粧品の目的と働き　2．ネイルポリッシュ 3．ポリッシュリムーバー
11	ヘアケア化粧品	1．ヘアケア化粧品の目的と働き　2．洗髪料　3．育毛料　4．ヘアスタイリング料 5．トリートメント長　6．パーマネントウェーブ料7．染毛料、ヘアブリーチ
12	フレグランス	1．フレグランスの目的と働き　2．女性用香水 3．香水以外のフレグランス商品
13	まとめ	1．メイクアップ化粧品　2．ネイル化粧品　3．ヘアケア化粧品　4．フレグランス総合まとめ
14	筆記試験	1.メイク　2.ネイル　3.ヘアケア化粧品　4.フレグランス　5.成績評価②
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	エステティック概論・衛生学・関連法規Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	エステティック概論・衛生学・関連法規Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅲ・筆記用具・ノート		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	エステティックの全体像を正しく理解し、本質を知る。法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準を理解する。		
到達目標	エステティックに関わる法律を理解し、安全に施術を行うことができる		
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	須藤　直美	実務経験	○
実務内容	エステティックサロンにエステティシャンとして2年勤務した経験を基に法律を理解し、安全に施術を行うことができるよう、授業を展開する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション エステティックの概念	オリエンテーション 1．エステティックとは何か　　2．内面美容としてのエステティック
2	エステティックの本質と領域　1	エステティックの語源と歴史
3	エステティックの本質と領域　2	エステティックの領域
4	ソワンエステティック　1	1．ソワンエステティックの語源　2．目的と期待される効果
5	ソワンエステティック　2	3．スキンタッチの重要性　4．五感美容
6	美と健康 エステティシャンの心構え	1．健康美は心身のバランスから　2．ウェルネス 3．アンチエイジング 1．エステティシャンの資質　2．ホスピタリーマインドの意義

7	日本のエステティック 世界のエステティック	1,日本のエステティック 2,世界のエステティック
8	筆記試験	エステティックの概念〜エステティシャンの心構え　成績評価①
9	公衆衛生	1．公衆衛生とは　2．世界における公衆衛生の歴史 3．日本における公衆衛生の歴史
10	衛生管理　1	1．衛生管理全般　2．消毒方法の種類とその基本的な使用法
11	衛生管理　2	3．消毒の準備・用具　4．施術に関わるものの消毒方法
12	感染症　1	1．感染のメカニズム
13	感染症　2	2．エステティックに関連する感染症
14	筆記試験	前期総合　成績評価②
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ベーシックエステⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックエステⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	新エステティック学　技術編Ⅰ・理論編Ⅲ クリエーヌ化粧品セット・タオル類・消耗品類		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	身体や皮膚の生理機能に基づいたフェイシャル・ボディトリートメントを学び、 エステティックの流れ、基本の手技を覚え一つ一つの手技の意味を理解する。
到達目標	ホスピタリティーの実践、基礎的なフェイシャル・ボディの技術を提供できるようになる。
評価基準	実技試験60％(成績評価全２回実施)小テスト20％、授業態度・提出物20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン
関連科目	皮膚学Ⅰ・生理学Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	牛渡　千穂　他４名	実務経験	○
実務内容	エステティックサロンにてエステティシャンとして6年勤務した経験を活かし、基本の手技を覚え一つ一つの手技の意味を理解させ、実践的な授業を展開する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ベーシックⅠオリエンテーション ボディエステティックとは	自己紹介・前期授業の方向付け、履修目標について解説 １．ボディエステティックの目的と効果２．ボディエステティックの流れ ３．ルールについて・ベッドセッティング
2	接客マナー	笑顔・あいさつ身だしなみ・言葉づかい・基本動作・ベッド誘導 ボディトリートメント/手の使用部位・流れ（下肢後面デモ・練習）・下肢後面相モデル練習
3	ボディマッサージ　下肢後面①	手技練習・拭取り練習
4	ボディマッサージ　下肢後面②	下肢後面通し練習
5	ボディマッサージ　下肢後面③	下肢後面通し練習

6	ボディ実技試験	成績評価①
7	フェイシャルエステティックとは 接客マナー	フェイシャルエステティックの目的と効果・フェイシャルエステティックの流れ 事前準備・基本動作・ベッド誘導
8	フェイシャル　クレンジング ①	クレンジング導入・デモ
9	フェイシャル　クレンジング ②	クレンジング練習
10	フェイシャルマッサージ　①	マッサージ導入・デモ
11	フェイシャルマッサージ　②	マッサージ導入・デモ
12	フェイシャルマッサージ　③	マッサージ総合
13	フェイシャルマッサージ　④	マッサージ総合
14	フェイシャル実技試験	成績評価②
15	総合技術	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ベーシックネイルⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックネイルⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	JNAテクニカルシステム　ベーシック ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	ネイルについて歴史などの背景から始まり各部名称や病気・消毒法などを理解し、 基礎的なケアカラー技術を実践できる		
到達目標	ネイルの基礎知識及び技術を理解し実践でき、ＪＮＥＣ３級レベルを習得する		
評価基準	実技テスト30%、筆記テスト30%、小テスト20%、宿題及び授業態度他20%		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNECネイリスト検定3級		
関連科目	生理学・皮膚学		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	①幸田弘美　②田原良子　③原島亜紀　④村松美幸	実務経験	○
実務内容	①ネイルサロン勤務経験、店長19年/日本ネイリスト協会常任本部講師/ネイルの素敵な効用を通して楽しく学ぶ授業を展開する。 ②ネイルサロン勤務経験６年/日本ネイリスト協会認定講師の経験を活かしネイルアートの楽しさと幅広いアート技術の習得を実感できるような授業を展開する。 ③ネイルサロン勤務歴7年/サロンワーク継続中/ネイルスクール主任/日本ネイリスト協会認定講師の経験を活かし、安定確実なブレない技術を身につけられる楽しい授業をします。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	教材配布・歴史・技術体系・面取り・ウッドスティック整え方	教材配布(名称及び説明)・今後の説明・歴史・技術体系　・ファイルの面取り・ウッドスティック整え方
2	ネイル概論（爪の構造と働き） ネイルの為の皮膚科学 テーブルセッティング ファイリングデモ・実技 （トレーニングハンドにてデモ・実技は自分の爪）	爪の構造・皮膚学（皮膚学の教科で学んでいる内容との相違と不足分を学ぶ） 検定に準じたテーブルセッティングを学ぶ トレーニングハンドを使用し、ファイリングの手順、５パターンのカットスタイルの違いを理解する ライトを使用する（ＡＬ方式）
3	消毒法 ファイリング実技（相モデル）・バッフィング ケア　デモンストレーション(プッシュアップ・プッシュバック)	消毒衛生を理解する ファイリング相モデル・バッフィングの方法を学び、実践する ケアのデモンストレーションでプッシュアップ・プッシュバックを学ぶ

4	ネイルのための生理学Ⅰ・Ⅱ ケア　デモンストレーション(プッシュアップ・プッシュバック・ニッパーの使い方)　ケア実技	生理学の教科で学んでいる内容との相違と不足分を学ぶ 正しい使用方法、手順を学ぶ　ケアだけのデモンストレーションをプッシュアップ～ニッパーまで学び、実践する
5	ケア実技（相モデル）	両手を通しての手順を覚える
6	化粧品学　カラーリング デモ　シートまたはチップ実技 カラーリング実技（相モデル）	香粧品学の教科で学んでいる内容との相違と不足分を学ぶ シートまたはチップを使用し、ボトルの持ち方、ポリッシュの量、塗り方を学ぶ（持ち塗り、置き塗り）
7	爪の病気とトラブル 爪の異常 ケア・カラーリング実技	爪のトラブルを学ぶ カウンセリング～ケア～カラーリングまでの手順を学ぶ
8	検定注意事項３級検定ＤＶＤ ケア・カラーリング実技	検定に向けて手順を完全に理解する
9	ポリッシュアートとペイントアート 講義･デモ・実技　シート練習 アート練習(チップ)	検定以外の基本のアートを学ぶ (フレンチ・シボレー・ファン・マーブル他）アクリル絵の具使用のペイントアートを学ぶ (ドット・ライン・ベタ塗りなどと共に花や葉などの基本形とバランス・色合い) テーマを決めアート練習　※チップにラウンド・アートの宿題
10	アート練習 カラー･アート(相モデル)	
11	ケア･カラー･アート実技 筆記試験対策	検定の実技練習 ※チップにラウンド・カラー・アートの宿題　筆記試験対策を行う
12	筆記試験（テスト） 検定実技	検定の実技練習 ※チップにラウンド・カラー・アートの宿題
13	実技試験（テスト）	検定の実技にてタイムトライアル ※チップにラウンド・カラー・アートの宿題
14	検定実技（タイムトライアル）	検定の実技にてタイムトライアル ※チップにラウンド・カラー・アートの宿題
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ベーシックメイクⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	ベーシックメイクⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）		出版社	株式会社　ユアサポート	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	スキンケアからフルメイクまでのメイクの技術を習得し現場を意識して実践できるようになる。		
到達目標	スキンケアからフルメイクまでの技術と理論を理解する。 人にメイクが出来るようになる。		
評価基準	テスト50%、提出物30%　授業意欲20%		
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	メイクアップ検定ベーシック（後期）		
関連科目	検定メイクⅠ、検定メイクⅡ、ベーシックメイクⅡ、ヘア＆メイク		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	出蔵　朋美　　他2名	実務経験	○
実務内容	外資系化粧品メーカーでメイクアップアーティストとして10年間勤務。 これまでの肌知識や様々なメイク方法を活かし授業展開をする。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 教材確認（名称、使い方、管理（セッティング）方法）
2	スキンケア	スキンケア（手順）、反復練習
3	スキンケア/ベースメイク	スキンケア復習、 ベースメイク（手順）
4	スキンケア/ベースメイク	スキンケアテスト10分 ファンデーション（手順の復習、質感・多色塗り）
5	ベースメイク	ベースメイク（手順の復習とタイムアップ）、ベースメイクの振り返り
6	ベースメイク/ポイントメイク	ベースメイク（手順の復習とタイムアップ） ポイントメイク（アイシャドウ）
7	セルフメイク	セルフメイク
8	ポイントメイク	ポイントメイク（アイメイク、アイブロウ）

9	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
10	ポイントメイク	ポイントメイク(リップ、チーク、ハイ＆ローライト)
11	フルメイク	ベースメイクから、全てのポイントメイクを行う
12	フルメイク	フルメイクテスト35分×2、ベーシックテクニックの振り返り
13	ソフト	フルメイク(ソフト)
14	シャープ	フルメイク(シャープ)
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	就職対策I		
必修選択	選択	（学則表記）	就職対策I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	就職するうえで必要な知識や心構えを身に付ける
到達目標	就職希望サロンを明確にし、内定取得に向けての知識・心構えが身に付いている
評価基準	テスト：５０％　提出物：３０％　授業態度：２０％
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	山田　瑠美　他２名　　実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	導入・アンケート記入	・就職指導を行う目的を理解 ・スケジュールの組み立てと就職への意識付け
2	職業理解	・各職業の業務内容や1日の流れを説明
3	職業研究	・目指す職業に就くにあたり必要な資格や能力を自分と照らし合わせながら考える
4	身だしなみ導入	・目指す職業に就くにあたり必要な身だしなみを考える
5	身だしなみ	・職業に適した身だしなみの実践
6	一般常識	・一般常識プリント
7	一般常識	・一般常識プリント
8	自己分析①	・大事にしたい価値観を理解する

9	自己分析②	・過去の経験を振り返る
10	自己分析③	・自分の強みと弱みを知る
11	サロン研究	・自分が目指すサロンについて調べる
12	サロン見学	・サロン見学の仕方 ・サロン体験について
13	グループディスカッション	・サロン体験について、グループ発表
14	グループディスカッション	・サロン体験について、グループ発表
15	総合授業	・前期の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	カラーコーディネートⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	カラーコーディネートⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	新配色カード パーソナルカラーコーディネート検定テキスト パーソナルカラーコーディネート検定課題集		出版社	日本色研事業(株) クリエスクール	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	色に関する知識、法則、技法を理解する。		
到達目標	パーソナルカラーコーディネート検定に合格する。 美容の現場で色に関して適切な提案ができるようになる。		
評価基準	テスト30%、検定試験30%、提出物20%、授業態度20%		
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者		
関連資格	パーソナルカラーコーディネート検定		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	池田　祐子	実務経験	○
実務内容	CLE協会認定講師歴14年、カラー講座やカラー診断士育成に務めてきた経験を活かし、色の知識をパーソナルカラーに結びつけ、自他の個性を知ってもらい、色を通して人への関心を深める力を養いながら、検定合格を目指し美容の現場で色に関して手適切な提案をできるように教授する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	アドバイス実践 （ファッション）	ファッションについて
2	アドバイス実践 （ヘアカラー・メイク）	ヘアカラー、メイクについて
3	アドバイス実践 （ネイル・ブライダル）	ネイル、ブライダルについて
4	総復習	検定試験に向けての総復習

5	総復習	復習と練習問題
6	検定対策授業	復習と練習問題
7	検定対策授業	復習と練習問題
8	検定対策授業	復習と練習問題
9	検定対策授業	復習と練習問題
10	検定対策授業	復習と練習問題
11	パーソナルカラーの判定①	パーソナルカラーの判定に必要な知識について
12	パーソナルカラーの判定②	パーソナルカラーの判定に必要な知識・実践について
13	４つのグループの具体化①	パーソナルカラー４つのグループの特徴を理解し、グループを明確にする
14	４つのグループの具体化②	パーソナルカラー４つのグループの特徴を理解し、グループを明確にする
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	未来デザインプログラムⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	7つの習慣Ｊテキスト、夢のスケッチブック		出版社	(株)FCエデュケーション	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」を体現する為の授業として、7つの習慣を体系的に学ぶことで、社会人／職業人としてあるべき人格を高め、主体性を発揮して物事にチャレンジできる人材に成長する
到達目標	・「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解する ・他者へのリーダーシップを醸成し、主体性を発揮できる様になる
評価基準	小テスト／レポート：２０％　授業態度：４０％　　提出物：４０％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	なし
関連科目	キャリア支援／就職対策等
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	武井　亮子
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
2	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
3	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
4	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、理解してから理解するという考え方があるということを学ぶ
5	相乗効果を発揮する	多様性や人と違いがあることに価値があることを学ぶ
6	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える

7	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続あり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
8	人生ビジョンを見直そう	自らが立てたライフプランを現実的な視点から見つめ、必要な軌道修正を考える
9	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高めていく
10	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
11	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
12	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
13	未来デザインプログラムの振り返り	７つの習慣など、未来デザインプログラム授業で学んだことの復習（知識確認）
14	2年生に向けて①	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
15	2年生に向けて②	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	就職対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	就職するうえで必要な知識や心構えを身に付ける
到達目標	就職希望サロンを明確にし、内定取得に向けての知識・心構えが身に付いている
評価基準	テスト：５０％　提出物：３０％　授業態度：２０％
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	出藏　朋美　他２名
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	学外実習導入	・実習について
2	自己PRを考える	・自己PRを考える
3	実習用自己PRシートの作成①	・自己PRシートの作成（下書き）
4	実習用自己PRシートの作成②	・自己PRシートの作成（完成）
5	一般常識	・一般常識プリント
6	一般常識	・一般常識プリント
7	学外実習にむけて①	・アポイントの取り方、訪問のマナー、身だしなみ 就職ガイドP34～35
8	学外実習にむけて②	・実習手帳についての説明（実習心得・サロン概要記入・守秘義務）

9	就職活動に向けて①	・就職活動のルールについて ・求人票の見方について
10	就職活動に向けて②	・就職活動のポイント ・身だしなみについて
11	就職活動に向けて③	・身だしなみチェック ・就職活動の一般常識
12	就職活動に向けて④	・履歴書の作成 ・求人検索をし、志望動機を考える
13	就職活動に向けて⑤	・履歴書の作成 ・志望動機・自己を考える
14	就職活動に向けて⑥	・履歴書の作成
15	総合授業	・総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	サロンマナーⅡ		
必修選択	必修	（学則表記）	サロンマナーⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	サービス接遇検定公式テキスト３級 サービス接遇検定実問題集３級 就職ハンドブック		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを身につける
到達目標	サービス接遇検定３級に合格する。 美容の現場で敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのマナーを身につける。
評価基準	テスト40％、検定試験30％、課題・提出物20％、授業態度10％
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	サービス接遇検定3級
関連科目	就職対策
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	廣田　亜弥
実務経験	○
実務内容	客室乗務員として約20年間勤務。その後、総合病院の病棟クラーク、結婚式場やホテルでの受付・クローク業務など幅広くサービス業に従事した経験を活かし、社会人としての考え方やマナーを身につけさせる授業を展開する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	検定対策授業	復習と練習問題
2	検定対策授業	復習と練習問題
3	検定対策授業	復習と練習問題

4	検定対策授業	復習と練習問題
5	検定対策授業	復習と練習問題
6	検定対策授業	復習・検定問題の解答・解説
7	履歴書作成①	履歴書とは、履歴書のマナー、履歴書の書き方について
8	履歴書作成②	履歴書作成
9	社交文書　①	縦書き・横書きレイアウトについて 文書の種類・文書の構成・頭語と結語・時候の挨拶・前文、末文の慣用句
10	社交文書　②	郵便の基礎知識～宛名の書き方、返信はがき、お礼状、送付状について
11	理想の美容従事者像	お客様から愛され・親しまれる美容従事者について
12	実技演習①「受付～誘導」	受付から誘導のロールプレイング演習
13	実技演習②「面接練習」 実技演習③「電話応対」 実技演習④「お茶出し」	面接試験の種類とチェックポイントについて 面接ロールプレイング
14		電話のかけ方・受け方、伝言メモ、予約電話のシミュレーション
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	SNS・WEB・フォトスキル		
必修選択	選択	(学則表記)	SNS・WEB・フォトスキル		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	なし		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	美容業界の現状やニーズを把握し、SNS・WEB・フォトスキルを活用したマーケティング・集客を理解し実践できるようになる。
到達目標	顧客の共感や集客につながるメッセージや写真をTwitter、Instagram、LINE@などのSNSやWEBを通じて発信できる。各コンテンツの基礎知識から運用ルールを把握、理解し、実践できる。
評価基準	テスト40%、提出物30%　授業態度等30%
認定条件	・出席が掃除関数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上のもの
関連資格	
関連科目	フォト＆ファッション
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	WEBマーケティングとSNS	SNSアカウント運用、広告、HP、LPの役割、ペルソナの設定などの基礎知識の講義
2	Instagramマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
3	Twitterマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
4	公式LINEアカウントマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
5	Youtubeマーケティング	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
6	Facebook/Tiktokなどの各種SNSについて	概要、成功事例、運用法則の講義、身近な良い活用事例の発表
7	炎上防止と炎上があった際の対策	ケーススタディ
8	画像撮影、加工の基礎	講義+実践
9	写真の撮影について	基礎的な技法の講義と実践
10	動画の撮影について	基礎的な技法の講義と実践

11	ライティングの基礎	講義+実践(9回目、10回目で撮影した写真・動画を使ってSNSの更新を行う)
12	ランディングページ(LP)を作ってみよう	SNSで人気のあるLPの紹介と簡易LP構築ツールを使用したLPの作成
13	WEB・SNS広告の概要と基本思想	講義(リスティング、SNS、GDN、YDN)それぞれの効果的な活用方法と特徴
14	WEB・SNS広告、SNSアカウントの分析方法	WEB・SNS広告、SNSアカウントの分析方法を学ぶ
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	皮膚学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	皮膚学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅰ・筆記用具・ノート		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	皮膚の働きのしくみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケアの方法を学ぶ ・肌の美しさを損ねる要因・様々な肌状態 ・肌と環境・肌分析
到達目標	さまざまな肌状態をチェックすることができ、トラブルの原因を説明できる。
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン
関連科目	生理学Ⅱ・プロフェイシャルⅠ・ベーシックエステⅡ・フェイシャル＆ボディⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	須藤　直美　　実務経験　○
実務内容	エステティックサロンにエステティシャンとして2年勤務した経験を基に、肌の基本知識について教授し、エステの実技に活かす授業を展開する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	皮膚学Ⅱオリエンテーション	担当教員自己紹介・後期授業の方向付け、履修目標について解説 前期の振り返り　小テスト成績評価対象
2	さまざまな肌状態　1	1．肌意識の年代変化 2．美しい肌
3	さまざまな肌状態　2	3．衰えた肌
4	さまざまな肌状態　3	4．色素沈着を起こした肌①
5	さまざまな肌状態　4	4．色素沈着を起こした肌②
6	さまざまな肌状態　5 筆記テスト	筆記テスト①　成績評価①／5．ニキビ①
7	さまざまな肌状態　6	5．ニキビ②
8	さまざまな肌状態　7	テスト返却　／　ニキビ③

9	さまざまな肌状態　／　肌と環境	６．肌荒れと敏感 １．肌と地域気候　２．肌と気象の季節区分
10	肌分析　・　筆記テスト	筆記テスト②　成績評価② １．目的　２．肌分析を行う上で考慮すべきポイント　３．肌質チェック項目
11	肌分析	４．肌タイプ　／　肌分析（実践）　小テスト成績評価対象
12	免疫・アレルギーについて	テスト返却／免疫とは（免疫細胞の種類、免疫システム）／アレルギー
13	様々な皮膚疾患	様々な皮膚疾患　肌分析／肌トラブル（研究）
14	肌分析／肌トラブル（研究）	肌分析／肌トラブル（発表）　(ALグループ学習・成績評価対象)
15	総合授業	総合授業を行う　※メイクコース・ネイルコースは総復習を行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	生理学Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	生理学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅰ・筆記用具・ノート エステティシャンのための解剖生理学(エステコースのみ)		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会 （エステコースのみ）	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	人体の仕組み、構造と働きの基本を理解する。 ・内分泌系・呼吸器系・循環器系・消化器系 ・生殖器系
到達目標	さまざまな体質・体型・状態をチェックすることができ、トラブルの原因を説明できる。
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度(グループワーク)、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン
関連科目	皮膚学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅠ・プロボディⅠ・ベーシックエステⅡ・フェイシャル＆ボディⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	須藤　直美
実務経験	○
実務内容	エステティックサロンにエステティシャンとして2年勤務した経験を基に生理学的にさまざまな体質・体型・状態をチェックできる状態をつくり実技に活かす授業を展開する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	生理学Ⅱオリエンテーション 末梢神経	担当教員自己紹介・後期授業の方向付け、履修目標について解説 前期の振り返り　末梢神経
2	感覚	１．感覚～外界情報の収集　（１）－（３）
3	感覚	１．感覚～外界情報の収集　（４）
4	内分泌系　1	１．内分泌系の役目 ２．各内分泌腺とホルモンの種類（１）
5	内分泌系　2	２．各内分泌腺とホルモンの種類（２）－（７）
6	筆記テスト　／　呼吸器系	筆記テスト①　成績評価① １．呼吸のあらまし　２．外呼吸と内呼吸 ３．呼吸器の構造　４．呼吸運動
7	循環器系　1	１．心臓の構造 ２．血液循環（１）－（４）

8	循環器系　2	３．心臓の興奮伝達系 ４．血管の種類と構造　　５．リンパ系（１）（２）
9	循環器系　3	循環器系　まとめ　小テスト5
10	消化器系　1	１．消化作用 ２．消化器系の構成（１）－（４）
11	消化器系　2	２．消化器系の構造（５）－（７）
12	テスト　／　泌尿器系	筆記テスト②　成績評価③ １．腎臓とは（１）
13	泌尿器系　／　生殖器系	１．腎臓とは（２）（３）　２．副腎とは １．月経のメカニズム　２．妊娠　３．胚葉分化
14	内臓疾患	様々な内臓疾患
15	総合授業	総まとめを行う 感覚／内分泌系／呼吸器系／消化器系　まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	栄養学Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	栄養学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学 エステティシャンのための栄養学		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	人間の栄養素の必要量、食品成分、食料の消費と経済、食習慣、食品の栄養価、食事と健康を理解する。 ・栄養学から見た食品 ・健康と栄養・サプリメント・食品添加物
到達目標	栄養学の基礎知識を理解し、健康と栄養・サプリメント・食品添加物についてアドバイスができる。
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン
関連科目	エステティックカウセリング
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	桐渕　圭子
実務経験	○
実務内容	エステティックサロンにエステティシャンとして6年勤務した経験を基に、エステティシャンとして必要な栄養学の知識を理解させる授業を展開する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	栄養学Ⅱオリエンテーション	前期の振り返り
2	栄養学の基礎知識　消化吸収	5,食物摂取とその吸収
3	栄養学の基礎知識　食品　1	１．栄養学から見た食品（１）
4	栄養学の基礎知識　食品　2	２．栄養学から見た食品（２）
5	栄養学の基礎知識　食品　3	３．栄養学から見た食品（２）
6	栄養学の基礎知識　食品　4	４．栄養学から見た食品（２）
7	筆記試験	まとめ/成績評価①
8	健康と栄養　1	１．栄養状態の判定 ２．肥満

9	健康と栄養　2	３．中・老年期の栄養
10	健康と栄養　3	４．美容と栄養
11	健康と栄養　4	５．まとめ
12	筆記試験	栄養学の基礎知識（10月―11月分）健康と栄養　成績評価②
13	サプリメント	サプリメント
14	食品添加物	小テスト
15	まとめホームケアアドバイス	フェイシャル及びボディシートの ホームケアアドバイス内容

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	香粧品学Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	香粧品学Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅱ・筆記用具・ノート		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	化粧品の法律上の扱いや分類、取り扱い上の留意点、化粧品の目的と機能、使用される主な原料を学ぶ。 ・フェイシャル、ボディ化粧品 ・化粧品に用いられる薬剤とその働き
到達目標	化粧品の基礎知識を理解し、安全に使用することができる。
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン
関連科目	エステティックカウセリングⅠ・プロフェイシャルⅠ・プロボディⅠ・ベーシックⅡ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	須藤　直美
実務経験	○
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして勤務歴2年の経験を活かし、化粧品の取り扱いや使用される原料、化粧品に用いられる薬剤やその働きを理解させる授業を展開する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション 前期の振り返り
2	フェイシャル化粧品　1	1．フェイシャル化粧品の目的と働き 2．洗顔化粧品
3	フェイシャル化粧品　2	3．整肌化粧品
4	フェイシャル化粧品　3	4．賦活化粧品
5	ボディ化粧品　1	1．ボディ化粧品の目的と働き 2．洗浄料
6	ボディ化粧品　2	3．シェイプアップ料4．サンケア料
7	ボディ化粧品　3	5．制汗・防臭料　6．浴用料　7．脱毛料
8	筆記試験	フェイシャル・ボディ化粧品　成績評価①

9	化粧品の原料　1	1．化粧品の使用目的と剤型タイプの特徴 2．水性原料　3．保湿剤
10	化粧品の原料　2	4．油性原料
11	化粧品の原料　3	5．界面活性剤 6．高分子化合物　7．着色料　8．香料
12	化粧品に用いられる薬剤とその働き　1	1．紫外線カット剤　2．酸化防止剤 3．防腐防カビ剤
13	化粧品に用いられる薬剤とその働き　2	4．美白剤　5．肌荒れ防止剤など　6．ニキビ用薬剤　7．制汗防臭剤 化粧品の原料　薬剤とその働き
14	筆記試験	化粧品の原料　薬剤とその働き　成績評価②
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ベーシックネイルⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックネイルⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	JNAテクニカルシステム　ベーシック ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	ネイル技術の基本を学び実践でき、さらに基礎に加えてＪＮＡ２級課題である爪の補修・補強を学ぶ		
到達目標	JNEC3級のネイル技術をマスターし、ＪＮＡ２級取得が出来る技術をマスターしている		
評価基準	実技テスト30％、筆記テスト30％、3級検定結果30％、宿題及び授業態度他10％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNECネイリスト検定3級・2級		
関連科目	生理学・皮膚学		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	検定実技(タイムトライアル)	検定に向けての総仕上げ （筆記・実技とも） 過去問題・摸擬問題を配布して 解答を解説
2	〃	
3	〃	
4	アート(フレンチ・ラメグラ他)	白やピンクなどのマットカラーのカラーリング練習と 共に前期で学んだポリッシュアート（ラメグラデ等)や アニマル柄やチェックなどを含んだ流行のアートも 取り入れて相モデルにて行い習得していく
5	アート（マーブル・ウォーターマーブル）	
6	アート（トレンドアート）	
7	ハンドトリートメント講義、 デモ、ハンドトリートメント実技	ハンドトリートメントについて学ぶ
8	ケア・ハンドトリートメント	

9	プレパレーションデモリペア （シルクラップ）チップラップデモ、実技	爪の補修・補強及び チップによる長さだしの技術を学ぶ
10	リペア（シルクラップ） チップラップ	
11	リペア（チップラップ）	
12	リペア（チップラップ）	
13	実技テスト （アート・チップラップ）	授業の総復習として アートも含め実技を行う (ペイントアート＆ポリッシュアート)
14	筆記テスト ハンドトリートメント実技	
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ベーシックエステⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ベーシックエステⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	新エステティック学　技術編Ⅰ・理論編Ⅲ クリエーヌ化粧品セット・タオル類・消耗品類		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	エステティック機器の使用方法・注意事項・禁忌事項を学び、 肌・体の状態に合ったフェイシャル・ボディトリートメントを理解する。
到達目標	エステティシャンとしての接客マナーを実践し、クライアントの状態・目的に合ったディープクレンジングを安全に行うことができる
評価基準	実技試験60％(成績評価全２回実施)小テスト20％、授業態度・提出物20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン
関連科目	皮膚学Ⅰ・生理学Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員		実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ベーシックエステⅡ オリエンテーション	担当教員自己紹介・後期授業の方向付け、履修目標について解説前期の振り返り
2	ディープクレンジング (粒子有・無)導入	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 ディープ洗顔（粒入り・無し）
3	ディープクレンジング (粒子有・無)練習	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 ディープ洗顔（粒入り・無し）
4	ディープクレンジング(酵素)導入	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 スチーマー・ディープ洗顔（酵素）
5	ディープクレンジング(酵素)練習	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 スチーマー・ディープ洗顔（酵素）
6	ディープクレンジング総合	ケースワーク ※モデルの肌状態で（粒子有・なし・酵素＆スチーマー）選択：口頭試問
7	ディープクレンジング総合	ケースワーク ※モデルの肌状態で（粒子有・なし・酵素＆スチーマー）選択：口頭試問

8	実技試験	成績評価① ディープクレンジング総合
9	実技試験	成績評価① ディープクレンジング総合
10	ボディマッサージ　導入	デモ・下肢前面、拭取り
11	ボディマッサージ　練習	下肢前面、拭取り
12	ボディマッサージ　総合	下肢前面通し
13	実技試験	成績評価② ボディマッサージ　下肢前面　拭き取り
14	実技試験	成績評価② ボディマッサージ　下肢前面　拭き取り
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	ビューティーカウンセリング		
必修選択	選択	（学則表記）	ビューティーカウンセリング		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	化粧品ブランド資料・カルテ・カウンセリングシート等 筆記用具・ノート…ファイル		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	メイクの業界で求められる人材や接客においての言葉使いを学び、また化粧品のブランドについての知識を研究し実践力を身につける。
到達目標	コミュニケーション(対人)能力を身につける。 接客サービスの提供が出来るようになる。
評価基準	テスト50%、提出物30%　授業意欲20%
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション メイク業界の仕事とは	授業の目的目標、評価基準、授業ルール メイクの職種について／どんな人材が必要とされているかを理解する
2	メイクの仕事に就く上での、接客マナー・注意点など	身だしなみ・接客用語・敬語・気遣いについて知る
3	スキンケア知識対策 化粧品ブランドのグループ分け	化粧品ブランド調べグループに分ける ブランドの特徴を知る
4	カウンセリングとは①	ビフォアカウンセリングとアフターカウンセリング カウンセリング時の注意事項を理解する
5	カウンセリングとは②	信頼されるための話し方・聞き方・関わり方や声のトーンを理解する
6	カウンセリングシート・実践	記入の仕方（お客様に差し上げるシートには何を記入するのか） お客様のお悩みを聞き出し、要望をこたえるスキンケアを選ぶロールプレイング
7	接客マナー①	来店～施術までの動きを知る
8	接客マナー②	前回の復習 施術後～お帰りまでの動きを知る

9	スキンケア知識対策	ブランド化粧品を研究、今後カウンセリングに必要な知識を理解する
10	ベースメイク知識対策	ブランド化粧品を研究、今後カウンセリングに必要な知識を理解する
11	メイク知識対策①	ブランド化粧品を研究、商品プレゼン(ハンドタッチアップ含)
12	メイク知識対策②	ブランド化粧品を研究、商品プレゼン(ハンドタッチアップ含) テスト／振り返り
13	化粧品検定級対策① 間違いな美容知識をチェック	クレンジング～化粧くずれの対処法(小項目)
14	化粧品検定級対策② 間違いな美容知識をチェック	自分に似合う色の見つけ方～手や爪の特徴を学ぼう
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	検定メイクⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	検定メイクⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	3	45
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト） メイクアップテキストアドヴァンス（デジタルテキスト）		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	メイクの基礎知識や技術を学びメイク検定合格をする。
到達目標	検定の内容に沿ったメイク技術を身につける。 スキンケア・メイクアップテクニックを実践できる。
評価基準	テスト30%、検定取得20%、提出物30%　授業意欲20%
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	メイクアップ検定ベーシック
関連科目	ベーシックメイクⅠ、検定メイクⅡ、ベーシックメイクⅡ、ヘア＆メイク
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フルメイク/座学	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、検定試験に向けて試験概要の伝達 フルメイク(ソフト)
2	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
3	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
4	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
5	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
6	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
7	プレ検定	スキンケア10分・フルメイク34分行う テスト扱いとする

8	苦手克服	フルメイク(自分の苦手な場所を意識的に行う) 座学(問題集にて検定対策を行う)
9	アドヴァンス検定対策①	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの練習を行う
10	アドヴァンス検定対策②	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの練習を行う
11	アドヴァンス検定対策③	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの練習を行う
12	アドヴァンス検定対策④	検定テーマに合わせて、メイクアップ・デッサン・プレゼンテーションの練習を行う
13	アドヴァンス検定対策⑤	検定テーマに合わせて、テストを行う
14	アドヴァンス検定対策⑥	検定テーマに合わせて、テストを行う 振り返りを行う
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ヘアアレンジⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	ヘアアレンジⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	ヘアアレンジ道具一式 ヘアアレンジテキスト		出版社	ユアサポート	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	頭部の名称からヘアアレンジの基礎知識・現場での基礎技術を出来る様にする。
到達目標	ブラッシング・ピニングのヘアアレンジの基本テクニックを理解する。 編み込みやコテの使用等のヘアアレンジが出来る様になる。 就職活動に必要なセルフテクニックを知る。
評価基準	テスト50%、提出物30%　授業意欲20%
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	パーソナルヘア＆メイクⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 毛髪頭部名称、ブラッシング	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、教材確認、 毛髪知識、頭部名称
2	ブロッキング ポニーテール	ブロッキング、ポニーテール導入
3	ポニーテール 三つ編み	ポニーテール反復練習 三つ編み導入
4	ポニーテール 編み込み・フィッシュボーン	ポニーテール反復練習 編み込み・フィッシュボーン導入
5	ポニーテールテスト スタイル作り①	ポニーテールテスト、振り返り 学んだテクニックを使いスタイルを作る
6	スタイル作り②	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
7	ホットカーラー	ホットカーラー導入
8	ホットカーラー ピニング	ホットカーラー反復練習 ピニング導入

9	ホットカーラー／ピニング／逆毛	ホットカーラー、ピニング反復練習 逆毛導入
10	ホットカーラー／ピニング／逆毛	ホットカーラー、ピニング、逆毛反復練習
11	アイロン	アイロン導入
12	アイロン	アイロン反復練習
13	スタイル作り③	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
14	テスト	実技テスト
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	パーソナルメイク		
必修選択	選択	（学則表記）	パーソナルメイク		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	メイク道具一式、メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	基礎技術をテーマに合わせる(応用)メイクアップが出来るようになる。
到達目標	人に似合うメイクが出来るようになる。 お客様やモデルが希望するメイクデザインをその人の顔に合わせて出来るようになる。
評価基準	テスト50%、提出物30%　授業意欲20%
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	ベーシックメイクⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション パーソナルメイクとは	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 基本プロポーションレクチャー
2	プロポーション	素顔を生かすセルフメイク/プロポーション測定
3	理想のプロポーション	素顔を生かすセルフメイクの実践
4	錯覚Ⅰ	印象チェンジセルフメイク/錯覚メイクの実践
5	錯覚Ⅱ・色の錯覚	錯覚を応用したテクニック/色彩的な錯覚の実践
6	色とトーン	色の持つイメージ・トーンの持つイメージを理解し、各色が持つイメージワードを考え、 組み合わせることで、メイクの幅が広がることを理解する。
7	カラーマップ 質感	カラーマップの見方を理解 質感の特徴理解
8	カラーマップに沿ったメイク	前回と違うパターンのメイクをする。

9	ベース作り①	座学　顔写真＋自分に合ったベース作り 錯覚メイクのプロポーション理解
10	ベース作り②	前回の資料を元にベースメイク
11	パーソナルメイクアップ①	相モデルで骨格・パーツ診断をしパーソナルメイク実践
12	パーソナルメイクアップ②	相モデルで骨格・パーツ診断をしパーソナルメイク実践
13	イメージチェンジ	相モデルでイメージチェンジメイクを実践
14	フルメイク	フルメイクテスト／振り返り
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ベーシックメイクⅡ		
必修選択	選択	（学則表記）	ベーシックメイクⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	前期に学んだ基礎を生かしテーマに合わせたメイク技術を習得しメイク検定合格を目指す
到達目標	メイクの基礎技術から、フルメイクまで出来るようになる
評価基準	テスト30%、検定取得20%、提出物30%　授業意欲20%
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	メイクアップ検定ベーシック
関連科目	ベーシックメイクⅠ、検定メイクⅠ、検定メイクⅡ、ヘア＆メイク、パーソナルメイク
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	
実務経験	○
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フルメイク/座学	検定試験に向けて試験概要の伝達 フルメイク(ソフト)
2	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
3	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ)
4	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
5	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの)
6	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
7	苦手克服	フルメイク(自分の苦手な場所を意識的に行う)
8	プレ検定	スキンケア10分・フルメイク35分行う テスト扱いとする

9	プロポーション	プロポーションについて導入、実践
10	錯覚	錯覚について導入、実践
11	ネイル　→　色、質感 エステ　→　フルメイク	ネイル　→　色、質感について導入、実践 エステ　→　メイク対策
12	ネイル　→　色、質感 エステ　→　フルメイク	ネイル　→　色、質感について導入、実践 エステ　→　メイク対策
13	ネイル　→　色、質感 エステ　→　フルメイク	ネイル　→　色、質感についてテスト エステ　→　メイク対策についてのテスト
14	ネイル　→　色、質感 エステ　→　フルメイク	ネイル　→　色、質感についてテスト エステ　→　メイク対策についてのテスト
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	エステティックカウンセリングⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	エステティックカウンセリングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅰ エステティシャンのためのエステティックカウンセリング(エステのみ)		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	一人ひとりの心や体の悩みの相談に応じて人間的な理解を深めて、悩みを解決へと導く心理学に基づく療法を理解する。
到達目標	エステティックに関わる法律を理解し、安全に施術を行うことができる
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン
関連科目	・プロフェイシャルⅠ・プロボディⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	牛渡　千穂　／　実務経験：○
実務内容	エステティックサロン勤務歴6年の経験を活かし、 接客時に必要なカウンセリング力を身につける授業を展開する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	エステティックカウンセリングⅠ オリエンテーション	オリエンテーション
2	カウンセラーの役割	1．カウンセリングとコンサルティング　2．「ソワンエステティック」の担い手として 3．悩みを解決へと導く心理学療法　4．ストレスにより「ホメオスタシス」も低下 5．エステティックサロンに求められているもの
3	心のメカニズムと顧客心理	1．「意識」「情動」「欲求」　2．「顧客心理」四つのポイント 3．聞き上手になろう　4．話し上手になろう
4	カウンセリングの流れ　1	1．受付での対応　2．ビフォーカウンセリング
5	カウンセリングの流れ　2	3．施術中のカウンセリング　4．アフターカウンセリング 1～4　小テスト
6	筆記試験	カウンセラーの役割・心のメカニズムと顧客心理　成績評価①
7	カウンセリングの実際　1	1、サロン内の環境 2、コンサルテーションシート　フェイシャル・ボディ　メニュー・技術選択の考え方
8	カウンセリングの実際　2	3、肌性及びトラブルに対する判断 4、体型と体質の判断　5、ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ機器

9	カウンセリングの実際　3	フェイシャルケース１ （さまざまな肌状態　皮膚学Ⅱがすべて終了している）
10	カウンセリングの実際　4	フェイシャルケース２ （さまざまな肌状態　皮膚学Ⅱがすべて終了している）
11	カウンセリングの実際　5	ボディケース１ （循環器系　生理学Ⅱが終了している）
12	カウンセリングの実際　6	ボディケース２ （肥満・中高年の栄養　栄養学Ⅱで終了している）
13	カウンセリングの実際　7	肌分析・体分析　ケース①
14	カウンセリングの実際　8	肌分析・体分析　ケース②
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	エステティック概論・衛生学・関連法規Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	エステティック概論・衛生学・関連法規Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	新エステティック学　理論編Ⅱ・筆記用具・ノート エステティシャンのための関連法規 エステティック概論・サロンでの衛生消毒		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	エステティックの全体像を正しく理解し、本質を知る。 法の基礎知識を学び、エステティックに関わる法律、自主基準を理解する。 ・経済行為、人の身体に直接関連する法律
到達目標	エステティックに関わる法律を理解し、安全に施術を行うことができる
評価基準	筆記試験①②60％・小テスト20％・授業態度、提出物など20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	認定エステティシャン・上級認定エステティシャン 認定フェイシャルエステティシャン
関連科目	エステティックカウセリングⅠ・プロフェイシャルⅠ・プロボディⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	須藤　直美
実務経験	○
実務内容	エステティックサロンでエステティシャンとして勤務歴2年の経験を活かし、エステティックの全体像を正しく理解し本質を知り、法の基礎知識を理解させる授業を展開する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 前期復習※エステ実習の為	オリエンテーション　前期の振り返り 1．消毒の準備・用具　2．施術に関わるものの消毒方法
2	衛生管理・衛生管理の実践	1．手指の衛生措置 2．手指の洗浄と消毒　3．消毒剤の効果と特徴
3	関連法規関連法規「法」の基礎知識　1	1．社会生活と「法」　2．法とは社会規範　3．法の強制力 4．法の原則
4	関連法規関連法規「法」の基礎知識　2	5．日本の資格制度 6．エステティックと法律
5	消費者保護　1	1．消費者政策 2．エステティックに関連する消費者トラブル
6	消費者保護　2	3．トラブル対応の心得

7	人の身体に直接関連する法律　1	1．四つの衛生法規　2．エステティックに関わりの深い衛生法規
8	人の身体に直接関連する法律　2	テスト範囲まとめ
9	筆記試験	成績評価①　　消費者保護・人の身体に直接関連する法律・法の基礎知識の範囲
10	エステティック業界の 統一自主基準　1	1．自主基準策定の目的　2．エステティックの定義
11	エステティック業界の 統一自主基準　2	3．日本エステティック振興協議会の倫理網領 4．サロン遵守事項
12	経済行為に関する法律　1	1．商法　2．集客　3．個人情報の保護に関する法律
13	経済行為に関する法律　2	4．消費者契約法　5．特定商取り引きに関する法律 6．割賦販売法
14	筆記試験	成績評価②　エステティック業界の統一自主基準～経済行為に関する法律
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	プロフェイシャルⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	プロフェイシャルⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	新エステティック学　技術編Ⅰ・理論編Ⅲ・エステティシャンのためのフェイシャル技術理論・クリエーヌ化粧品セット・タオル類・消耗品類		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	トラブル別に使用する化粧品・機器を理解し、その使用方法・注意事項・禁忌事項を 学び肌の状態にあったトリートメントを提供できる知識、技術を身につける
到達目標	エステティシャンとしての接客マナーを実践し、クライアントの状態・目的に合ったディープクレンジングを安全に行うことができる
評価基準	実技試験60％(成績評価全２回実施)小テスト20％、授業態度・提出物20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	AEA上級認定エステティシャン AJESTHE認定上級エステティシャン
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	牛渡　千穂	実務経験	○
実務内容	エステティックサロン勤務歴6年の経験を活かし、 資格取得に向けて機器の使用や接客マナーを指導する。

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	プロフェイシャルⅠ オリエンテーション	前期復習・オリエンテーション
2	ポイントメイククレンジング 形状別クレンジング剤	形状別クレンジング剤の使用方法について ポイントメイククレンジング
3	ディープクレンジング(粒子有・無し)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項　ディープ洗顔（粒入り・無し） 練習：フェイシャルマッサージ―マスク－ふき取り―誘導
4	ディープクレンジング(酵素)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項　スチーマー・ディープ洗顔（酵素） 練習：フェイシャルマッサージ―マスク－ふき取り―誘導
5	ディープクレンジング　練習	ケースワーク
6	実技試験	ケースワーク成績評価①
7	ディープクレンジング (ブラシ・キッシング)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 キッシング

8	ディープクレンジング (ブラシ・キッシング)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 フリマトール
9	ディープクレンジング(電気)	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 エレクトロクレンジング・ディスインクラステーション
10	ディープクレンジング　総合	ケースワーク
11	実技試験	成績評価②
12	スキンチェック	クレンジング後のスキンチェック方法導入
13	ケーストレーニング	肌分析　ケースワーク
14	ケーストレーニング	肌分析　ケースワーク
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	プロボディⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	プロボディⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	60
使用教材	クリエーヌ化粧品マッサージオイル・タオル類・消耗品類・採寸用メジャー 新エステティック学　技術編Ⅰ・理論編Ⅲ エステティシャンのためのボディ技術理論		出版社	日本エステティック協会 日本エステティック業協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	全身のマッサージを学び、採寸から分析しクライアントに合わせたマッサージを提供する。注意事項・禁忌事項を学び身体の状態にあったトリートメントを提供できる知識、技術を身につける。
到達目標	エステティシャンとしての接客マナーを実践し、クライアントの状態・目的に合った手技を組み合わせたマッサージを行うことができる。
評価基準	実技試験60％(成績評価全２回実施)小テスト20％、授業態度・提出物20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	AEA上級認定エステティシャン AJESTHE認定上級エステティシャン
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	伊藤葉子	実務経験	○
実務内容	エステティックサロン勤務歴6年の経験を活かし、資格取得に向けて機器の使用や接客マナーを指導する

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返り/前操作デモンストレーション
2	腰背部マッサージ　導入	デモンストレーション・手技・拭き取り
3	腰背部マッサージ　練習	通し練習　下肢後面～腰背部
4	下肢前面マッサージ　導入	デモンストレーション・手技・拭き取り
5	下肢前面マッサージ　練習	通し練習　腰背部～下肢前面
6	実技試験	成績評価①　腰背部～下肢前面
7	上肢マッサージ	デモンストレーション・手技・拭き取り

8	腹部マッサージ	デモンストレーション・手技・拭き取り
9	デコルテ・頭部マッサージ	デモンストレーション・手技・拭き取り
10	マッサージ総合	上肢～腹部～デコルテ・頭部
11	マッサージ総合	下肢後面・腰背部・下肢前面・上肢・腹部・デコルテ・頭部マッサージの不足箇所の練習
12	実技試験	成績評価②　総合
13	ボディチェック（採寸含む）	確認とボディチェック（視診・触診・問診）の　デモンストレーション・実践 マッサージ練習
14	ボディチェックを含めた総合授業	確認とボディチェック（視診・触診・問診）の実践 コンサルテーション・マッサージ
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	アロマテラピーⅠ-G		
必修選択	選択	（学則表記）	アロマテラピーⅠ-G		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	アロマテラピー検定公式テキスト1級 エッセンシャルオイル入門検定1級A/Bセット		出版社	公益社団法人　日本アロマ環境協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	アロマテラピーの基礎知識、精油のプロフィール、トリートメント法、嗅覚のメカニズムや脳の構造から香りの作用、健康学、アロマテラピーに関わる法律問題・資格制度を学ぶ
到達目標	アロマテラピーを家族や周囲の人々ともに楽しみ、健康維持の為に用いる知識を説明することができる
評価基準	筆記試験：60%　精油小テスト：20%　授業態度、提出物：20%
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	アロマテラピー検定1・2級
関連科目	プロフェイシャルⅠ・プロボディⅠ・エステティックカウンセリングⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	アロマテラピーオリエンテーション 第1章　イントロダクション	・アロマテラピーとは・精油とは ・仲間同士の植物の特徴
2	第2章　エッセンシャルオイル	・精油の持つ性質、作用、抽出方法 ・精油のプロフィール（イランイラン　クラリセージ　グレープフルーツ）
3	第2章　エッセンシャルオイル 第3章　セーフティ 第4章　プラクティス　1	・精油の選び方、自然環境との関係、　・安全に使うための心がけ ・精油の作用・精油のプロフィール（サンダルウッド）
4		・注意すべき対象者、保管方法　基材について ・精油のプロフィール（ジュニパーベリー・スイートオレンジ）
5	第5章　メカニズム 筆記試験	・精油が心身に伝わる仕組み　成績評価①
6	第6章 ビューティー＆ヘルスケア	・睡眠、ストレス、女性ホルモン、スキンケア ・精油のプロフィール（スイートマジョラム・ゼラニウム・ティートリー）
7	第7章　ヒストリー　　1	・アロマテラピーの歴史（エジプト、ギリシャ、ローマ、インド、中国） ・精油のプロフィール（ネロリ）

8	第7章　ヒストリー　　2	・アロマテラピーの歴史（アラビア・イスラム社会、中性ヨーロッパ、日本） ・精油のプロフィール（フランキンセンス・ペパーミント）
9	第7章　ヒストリー　　3	・アロマテラピーの歴史（近世～近代ヨーロッパ） ・精油のプロフィール（ベルガモット）
10	第7章　ヒストリー　　4	・アロマテラピーの歴史（現代　アロマテラピーの誕生） ・精油のプロフィール（ユーカリ・ラベンダー）
11	第8章　関連法規　　1	・アロマテラピーを楽しむために知っておきたい法律 ・精油のプロフィール（レモン・レモングラス・ローズ）
12	第8章　関連法規　　2	・アロマテラピーを楽しむために知っておきたい法律 ・精油のプロフィール（ローズマリー・ローマンカモミール）
13	第4章　プラクティス　2	・アロマテラピーの利用法（紹介のみ）
14	コラムまとめ 筆記試験	・各章にあるコラムの部分でアロマテラピーの活用や知識の幅を広げる 成績評価②（第1章から題８章まで）
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	アロマテラピーⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	アロマテラピーⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	アロマテラピー検定公式テキスト1級 エッセンシャルオイル入門検定1級Aセット		出版社	公益社団法人　日本アロマ環境協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	アロマテラピーの基礎知識、精油のプロフィール、トリートメント法、嗅覚のメカニズムや脳の構造から香りの作用、健康学、アロマテラピーに関わる法律問題・資格制度を学ぶ		
到達目標	アロマテラピーを家族や周囲の人々と共に楽しみ、健康維持の為に用いる知識を説明することができる		
評価基準	筆記試験60％・精油小テスト20％・授業態度、提出物など20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	アロマテラピー検定1・2級		
関連科目	プロフェイシャルⅠ・プロボディⅠ・エステティックカウンセリングⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	伊藤葉子	実務経験	○
実務内容	エステティックサロン勤務歴6年の経験を活かし、アロマテラピーの基礎知識、精油のプロフィール、トリートメント法、嗅覚のメカニズムや脳の構造から香りの作用、健康学、アロマテラピーに関わる法律問題・資格制度を伝える。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	アロマテラピーオリエンテーション 第1章　イントロダクション	・アロマテラピーとは・精油とは ・仲間同士の植物の特徴
2	第2章　エッセンシャルオイル	・精油の持つ性質、作用、抽出方法 ・精油のプロフィール（イランイラン　クラリセージ　グレープフルーツ）
3	第2章　エッセンシャルオイル 第3章　セーフティ 第4章　プラクティス　1	・精油の選び方・自然環境との関係・安全に使うための心がけ ・精油の作用・精油のプロフィール（サイプレス・サンダルウッド・ジャーマンカモミール）
4		・注意すべき対象者、保管方法　基材について ・精油のプロフィール（ジャスミン・ジュニパーベリー・スイートオレンジ）
5	第5章　メカニズム 筆記試験	・精油が心身に伝わる仕組み　成績評価①
6	第6章 ビューティー＆ヘルスケア	・睡眠、ストレス、女性ホルモン、スキンケア ・精油のプロフィール（スイートマジョラム・ゼラニウム・ティートリー）
7	第7章　ヒストリー　　1	・アロマテラピーの歴史（エジプト・ギリシャ・ローマ・インド・中国） ・精油のプロフィール（ネロリ・パチュリ・ブラックペッパー）
8	第7章　ヒストリー　　2	・アロマテラピーの歴史（アラビア・イスラム社会・中性ヨーロッパ・日本） ・精油のプロフィール（フランキンセンス・ベチバー・ペパーミント）））
9	第7章　ヒストリー　　3	・アロマテラピーの歴史（近世～近代ヨーロッパ） ・精油のプロフィール（ベルガモット・ベンゾイン・ミルラ）

10	第7章 ヒストリー　　4	・アロマテラピーの歴史（現代　アロマテラピーの誕生） ・精油のプロフィール（メリッサ・ユーカリ・ラベンダー）
11	第8章　関連法規　　1	・アロマテラピーを楽しむために知っておきたい法律 ・精油のプロフィール（レモン・レモングラス・ローズ）
12	第8章　関連法規　　2	・アロマテラピーを楽しむために知っておきたい法律 ・精油のプロフィール（ローズオットー・ローズマリー・ローマンカモミール）
13	第4章　プラクティス　2	・アロマテラピーの利用法（紹介のみ）
14	コラムまとめ 筆記試験	・各章にあるコラムの部分でアロマテラピーの活用や知識の幅を広げる 成績評価②（第1章から題８章まで）
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	スカルプチュア		
必修選択	選択	（学則表記）	スカルプチュア		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	ＪＮＥＣ１級課題となるスカルプチュア・イクステンションの基礎を学び、知識とともに技術向上を目指し、 アクリリックの特性を理解して施術が出来るようにする
到達目標	ＪＮＥＣ１級取得を目指すとともに、サロンワークで通用する技術をマスターしている
評価基準	授業態度他10％・筆記テスト30％・実技テスト60％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	JNECネイリスト検定3級・2級・1級
関連科目	ネイルケア＆ネイルアートⅠ－F・検定対策Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	導入 リペアオフ・デモ・実技	授業の目的・グルーオン・シルクラップ・オフ・デモ・実技
2	チップオン チップラップデモ・実技	チップオン・チップラップデモ・実技ハンド
3	チップラップ実技	チップラップ（ハンド・相モデル）
4		チップラップ（相モデル）
5	教材説明　スカルプ理論（講義デモ）ミクスチュア作りのデモ・練習	教材の説明、スカルプ理論・ミクスチュアの取り方

6	オーバーレイ	デモ・オーバーレイ実技（ハンド）
7		オーバーレイ実技（ハンド）
8		オーバーレイ実技（相モデル）
9	スカルプチュア	スカルプチュアデモ・実技（ハンド）
10		スカルプチュア実技（ハンド）
11		スカルプチュア実技（相モデル）
12	実技テスト	スカルプチャー、オーバーレイ内容
13	筆記テスト	スカルプチャー、オーバーレイ内容
14	スカルプチュア	スカルプチュア実技（相モデル）
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ネイルケア＆ネイルアートⅠ－F		
必修選択	選択	（学則表記）	ネイルケア＆ネイルアートⅠ－F		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	45
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	ＪＮＥＣ2級検定へ向けて、ニッパーのハンドリングやファイリング技術の強化と共に、 様々なネイルアート（フラット）を描くことが出来る
到達目標	2級レベルのネイルケア技術（お金を頂くことが出来る技術力）と与えられた課題のアートが描ける
評価基準	作品提出30％・授業態度他10％・筆記テスト30％・実技テスト30％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	・JNECネイリスト検定3級・2級・1級
関連科目	検定対策Ⅰ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ケア・カラー復習	基礎技術の確認と3級検定に向けての総仕上げ（２級対応・プッシャーニッパー強化）
2		
3	カラーデモ・実技	パールホワイト・マットピンク・ナチュラルスキンカラーの塗り方デモ・実技
4	ペイントアート （アクリル絵の具アート）	２級検定に向けてアクリル絵の具を使用してのアートを学ぶ チップにて過去の２級アートのテーマにて作品制作を行う
5		

6	実技（ケア・カラー・アート）	２級検定に向けてラウンドの正確さ・プッシュアップとプッシュバック・ニッパーの ハンドリングを意識する タイムを計って時間内に正確な技術が出来るようにしていく アートについては毎回テーマを決めて描き、難易度を上げていく
7		
8		
9		
10		
11	２級検定実技 （タイムトライアル）	ポリッシュオフ～カラーリング・アート
12		
13	実技テスト	２級検定内容
14	実技テスト・筆記テスト	２級検定内容
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	検定対策Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	検定対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	3	45
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	ＪＮＥＣ３級検定を取得し、更なる上の級やＪＮＡジェル検定初級の取得を目指し、 ネイリストとしての基礎を完全にマスターし、実践できる
到達目標	ＪＮＥＣ２級・ＪＮＡジェル初級の取得及びサロンワークで通用する基礎技術をマスターしている
評価基準	3級検定結果30％・授業態度他10％・筆記テスト30％・実技テスト30％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	JNECネイリスト検定3級・2級・1級
関連科目	ネイルケア＆ネイルアートⅠ－F・ジェルネイルⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員		実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	３級検定実技	３級検定に向けて、最終練習
2		
3	検定注意事項・２級検定デモ (手順・流れ説明)	JNEC２級検定に向けて筆記対策と共に検定要項に沿い注意事項を確認 基礎的な技術を復習し完全にマスターしていく
4	２級対応ケア練習 ラウンド/プッシャー/ニッパー強化	
5	プレパレーション、チップラップデモ・実技	爪の補強・補修及びチップによる長さだしの技術を学ぶ
6	チップラップ実技	
7	チップラップ相モデル	

8	2級検定後半実技【アート決め】 (チップラップ・カラー・アート)	２級検定の後半実技の練習を繰り返し行う
9	２級検定後半実技 (チップラップ・カラー・アート)	
10	ジェル初級検定実技または ２級検定実技（タイムトライアル）	タイム取りをしてジェル検定実技または2級実技試験の実技の練習を行う
11	ジェル初級検定実技または ２級検定実技（タイムトライアル）	
12	２級検定検定注意事項 筆記テスト	検定要項に沿い注意事項を確認
13	実技テスト	２級検定内容
14	実技テスト	２級検定内容
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ジェルネイルⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ジェルネイルⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	ジェルの基礎を学び知識とともに技術向上を目指し、 特性を理解して説明と施術が出来るようにする		
到達目標	ネイルの基礎的な知識・技術を理解し、ジェルネイル検定初級を取得をする		
評価基準			
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNECネイリスト検定3級・2級・1級		
関連科目	ネイルケア＆ネイルアートⅠ－F・検定対策Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	導入・教材説明・セッティング・初級実技試験について	教材説明、セッティングについて、ジェルネイル検定初級の内容を理解する
2	ジェル講義　ジェルカラーデモ クリア・カラー実技(自分の爪)	ライトで硬化するジェルシステムをジェルネイルテキストで学ぶ クリア・カラー　デモ・実技 ハンドチップの装着方法と使い方
3	クリア・カラー実技(相モデル) オフの仕方	クリア・カラー実技、オフの仕方デモ・実技
4	クリア・カラー実技 (相モデル)	ジェルカラー相モデル
5	ジェルアート・講義・デモ	ピーコック・フラワーなどの ジェルアートの基礎を学ぶ
6	ジェルアート	

7	初級検定説明・デモ	初級検定内容を学び・技術をマスターする ※受験時期により内容を前後して行う
8	初級検定実技	
9	初級検定実技	
10	筆記テスト 初級検定実技	
11	実技テスト	
12	中級検定について フレンチ・グラデーション　デモ・実技	中級検定について内容を理解する　フレンチ・グラデーション　デモ・実技
13	グラデーション実技	ハンドにグラデーション実技
14	フレンチ実技	ハンドにフレンチ実技
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	コンテストⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	授業内で技術を磨き競わせ、自身で諦めない気持ちやモチベーションを向上させ維持することを実践できる		
到達目標	コンテスト入賞		
評価基準	授業態度20％・実技テスト60％・アート作品20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNAジェルネイル検定初級・JNECネイリスト検定3級		
関連科目	ネイルケア＆ネイルアートⅠ－F・検定対策Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	導入	コンテストについての説明と意識付け モデル選びのポイント・今後のコンテストの予定など ハンドの仕込みについて
2	ケア・カラー	サロンワーク対応の技術と コンテスト対応の技術での 相違点を理解する
3	ケア・カラー	
4	ケア・カラー	
5	ケア・カラー	
6	ケア・カラー実技テスト	
7	アート	

8	アート	コンテスト対応の技術での 相違点を理解する
9	アート	
10	アート作品提出	
11	ケア・カラー	
12	ケア・カラー	
13	ケア・カラー	
14	ケア・カラー	
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	フェイシャル＆ボディⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	フェイシャル＆ボディⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	クリエーヌ化粧品セット・消耗品類 教科書　新エステティック学　技術編Ⅰ・理論編Ⅲ		出版社	日本エステティック協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	エステティック機器の使用方法・注意事項・禁忌事項を学び、肌・体の状態に合ったトリートメントを理解する。		
到達目標	エステティシャンとしての接客マナーを実践し、クライアントの状態・目的に合ったディープクレンジングを安全に行うことができる。		
評価基準	実技試験60％、成績評価全２回実施、小テスト20％、授業態度・提出物20％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	認定フェイシャルエステティシャン 認定ボディエステティシャン		
関連科目	皮膚学Ⅱ・生理学Ⅱ・エステティックカウンセリングⅡ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フェイシャル＆ボディⅠ オリエンテーション	前期復習　オリエンテーション
2	ポイントメイククレンジング 形状別クレンジング剤	形状別クレンジング剤の使用方法について（ジェル・クリーム・オイル）
3	フェイシャル ディープクレンジング	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 ディープ洗顔（粒入り・無し）
4	フェイシャル ディープクレンジング	ディープクレンジングの目的・使用目的と禁忌事項 スチーマー・ディープ洗顔（酵素）
5	通し練習	通し練習　　肌に合わせた選択をする クレンジング－ディープクレンジング－マッサージ－マスク－拭き取り－整肌
6	通し練習	通し練習　　肌に合わせた選択をする クレンジング－ディープクレンジング－マッサージ－マスク－拭き取り－整肌
7	フェイシャル実技試験	成績評価①

8	下肢（後）マッサージ復習	前期復習　ご案内-下肢マッサージ-ふき取り―誘導
9	腰背部マッサージ　導入	腰背部マッサージデモンストレーション
10	腰背部マッサージ　練習	下肢後面・腰背部　マッサージ練習
11	腹部マッサージ　導入	腹部マッサージデモンストレーション
12	腹部マッサージ　練習	腰背部・腹部　マッサージ練習
13	マッサージ総合	下肢後面～腹部　通し練習
14	ボディ実技試験	成績評価②
15	総合授業	総合復習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ネイルアートⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	ネイルアートⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	ＪＮＥＣ３級のアートに加えて、更に上級検定やサロンで通用するネイルアートの技法を 学び習得し、アートでの色使いや筆の使い方を習得する		
到達目標	与えられた課題でポリッシュやペイントアートが出来る		
評価基準	アート作品30％・授業態度他10％・筆記テスト30％・実技テスト30％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNECネイリスト検定3級・2級		
関連科目	生理学Ⅱ・皮膚学Ⅱ・ネイル演習		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	検定実技(タイムトライアル)	検定に向けての総仕上げ（筆記・実技とも） 過去問題・摸擬問題を配布して解答を解説
2		
3		
4		
5	カラー（マットピンク・ ホワイトなど）相モデル	白やピンクなどのマットカラーの カラーリング練習と共に 前期に学んだポリッシュアートを 相モデルにて行い習得していく ※カラーグラデーションやその他の 流行のアートも実践する
6	カラー（パールカラー・ナチュラル スキンカラーなど）相モデル	
7	アート（フレンチ･マーブル）相モデル	
8	アート（グラデーション・ ウォーターマーブル他）相モデル	

9	ペイントアート（アクリル絵の具アート）	２級検定に向けてアクリル絵の具を使用しての アートを学ぶ（全体のバランス、アニマル柄など） シート練習・チップにて作成 過去の２級アートのテーマにて作品制作を行う
10		
11	ケア・カラー・アート練習	アート練習
12	実技テスト（ケア・カラー・アート）	授業の総復習として アートも含め実技を行う
13		
14	筆記テスト	
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ネイル演習		
必修選択	選択	(学則表記)	ネイル演習		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	ＪＮＥＣ３級の取得をして、更に上級のＪＥＣ２級検定へ向けて付け爪などの技術を習得し、 より深くネイルケアの大切さを理解する		
到達目標	ＪＮＥＣ２級レベルのケアやアートが出来る		
評価基準	3級検定結果30％・宿題/授業態度他10％・筆記テスト30％・実技テスト30％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNECネイリスト検定3級・2級		
関連科目	生理学Ⅱ・皮膚学Ⅱ・ネイルアートⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	検定実技(タイムトライアル)	検定に向けての総仕上げ（筆記・実技とも） 過去問題・摸擬問題を配布して解答を解説
2		
3		
4		
5	プレパレーションデモ リペア(シルクラップ)デモ・実技	爪の修正及び チップによる長さだしの技術を学ぶ
6	リペア（シルクラップ）相モデル	
7	チップラップデモ・実技	

8	リペア(チップラップ)相モデル	爪の修正及び チップによる長さだしの技術を学ぶ
9	リペア(チップラップ)相モデル	
10	ハンドトリートメント講義 デモ、ハンドトリートメント実技	ハンドトリートメントについて学ぶ
11	ケア・トリートメント・カラー	
12	実技テスト (ケア・カラー・チップラップ)	授業の総復習として チップラップも含め実技を行う
13		
14	筆記テスト	
15	総合授業	これまでの総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	パーソナルヘア＆メイクⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	パーソナルヘア＆メイクⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	30
使用教材	メイク道具一式 ヘアアレンジテキスト		出版社	ユアサポート	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	頭部の名称からヘアアレンジの基礎知識・現場での基礎技術を出来る様にする。
到達目標	ブラッシング・ピニングのヘアアレンジの基本テクニックを理解する。 編み込みやコテの使用等のヘアアレンジが出来る様になる。 就職活動に必要なセルフテクニックを知る。
評価基準	テスト50%、提出物30%　授業意欲20%
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	ヘアアレンジⅠ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員		実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 毛髪頭部名称、ブラッシング	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、教材確認、 毛髪知識、頭部名称
2	ブロッキング ポニーテール	ブロッキング、ポニーテール導入
3	ポニーテール 三つ編み	ポニーテール反復練習 三つ編み導入
4	ポニーテール 編み込み・フィッシュボーン	ポニーテール反復練習 編み込み・フィッシュボーン導入
5	ポニーテールテスト スタイル作り①	ポニーテールテスト、振り返り 学んだテクニックを使いスタイルを作る
6	スタイル作り②	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
7	ホットカーラー	ホットカーラー導入
8	ホットカーラー ピニング	ホットカーラー反復練習 ピニング導入

9	ホットカーラー／ピニング／逆毛	ホットカーラー、ピニング反復練習 逆毛導入
10	ホットカーラー／ピニング／逆毛	ホットカーラー、ピニング、逆毛反復練習
11	アイロン	アイロン導入
12	アイロン	アイロン反復練習
13	スタイル作り③	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
14	テスト	実技テスト
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	検定メイクⅡ		
必修選択	選択	（学則表記）	検定メイクⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	2	30
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック（デジタルテキスト）		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	前期に学んだ基礎を生かしテーマに合わせたメイク技術を習得しメイク検定合格を目指す
到達目標	メイクの基礎技術から、フルメイクまで出来るようになる
評価基準	テスト30%、検定取得20%、提出物30%　授業意欲20%
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が２以上の者
関連資格	メイクアップ検定ベーシック
関連科目	検定メイクⅠ、ベーシックメイクⅠ、ベーシックメイクⅡ、ヘア＆メイク
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
2	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
3	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
4	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
5	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
6	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
7	苦手克服	フルメイク(自分の苦手な場所を意識的に行う) 座学(問題集にて検定対策を行う)
8	プレ検定	スキンケア10分・フルメイク35分行う テスト扱いとする

9	プロポーション	プロポーションについて導入、実践
10	錯覚	錯覚について導入、実践
11	色、質感	色、質感について導入、実践
12	色、質感	色、質感について導入、実践
13	フルメイク	フルメイクまとめテスト
14	フルメイク	フルメイクまとめテスト／振り返り
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	スマホフォト技術		
必修選択	選択	（学則表記）	スマホフォト技術		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	スマートフォンを使って作品撮りや自撮りのテクニックを身に付ける
到達目標	実際にインスタグラムのアカウントを作成し、投稿するための撮影技術やレイアウト、コラージュの仕方を学び投稿する。効果的な投稿ができるようになり、フォロワーを増やすことができる力を身に付ける。
評価基準	テスト・小テスト：６０％　授業態度：２０％　レポート・課題など：２０％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	SNS・WEB・フォトスキル
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 目的の設定	インスタグラムやSNSで集客するために
2	ペルソナの設定	見てもらいたいターゲットを決める
3	プロフィール作成	ペルソナ設定をした上で、ターゲット層へ向けてのプロフィールを作成する
4	惹きつける物の写真の撮り方①	写真の構図や角度について、魅力的な撮り方について
5	惹きつける物の写真の撮り方②	写真の構図や角度について、魅力的な撮り方について
6	惹きつける人物写真の撮り方①	お客様や自分自身をとる際の写真の構図、角度やぼかし技術について
7	惹きつける人物写真の撮り方②	お客様や自分自身をとる際の写真の構図、角度やぼかし技術について
8	効果的な投稿のあげ方①	投稿アプリを利用して、文章の組み立て方、つくり方を学び投稿してみよう

9	効果的な投稿のあげ方②	投稿アプリを利用して、文章の組み立て方、つくり方を学び投稿してみよう
10	ストーリー配信について	短編動画や写真を加工し有効的なストーリーを作成、使い方、機能の紹介
11	リール機能の効果的な使い方	30秒の短編動画を撮影し効果的な投稿について学ぶ
12	ライブ配信について	ライブ配信をする際のポイントや効果的な方法を学ぶ
13	成績評価	理解度の確認
14	フォロワー数について	フォロワーを上げるコツ、効果的な投稿をし続けられるために
15	総復習	これまでのまとめを行う

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	自己プロデュース		
必修選択	選択	（学則表記）	自己プロデュース		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材			出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	客観的な分析力と表現力を身に付ける
到達目標	・プロデュースとは何かを理解する ・自分自身のセールスポイントを理解し、人に伝えられるようになる
評価基準	テスト・小テスト：６０％　授業態度：２０％　レポート・課題など：２０％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	World Wide Web・ソーシャルネットワーキングサービス・フォトスキル、スマホフォト技術
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 自己プロデュースとは	講師の自己紹介 授業概要の説明 自己プロデュース能力の重要性について
2	自己分析①	自分の現状を知る
3	自己分析②	理想の将来像を考える
4	ブランドとは	ブランドの価値を学ぶ ブランド発想を身に付ける

5	ブランドのマネジメント	ブランドづくりのマネジメント（PDCA）を身に付ける コンセプトの重要性を学ぶ
6	ブランドとネーミング	ネーミングを実践する 自分を表すキャッチコピーを作成する セルフブランディング能力を身に付ける
7	成績評価①	理解度の確認
8	セールスライティング①	伝える技術を身に付ける ベネフィットの重要性を学ぶ
9	セールスライティング②	お客様がサービスを受けたいと思う理由を考察する USP（唯一無二のセールスポイント）の重要性を学ぶ 売れる文章の書き方を実践する
10	アナウンススキル	笑顔と笑声を身に付ける
11	プレゼンテーション①	PREP法を身に付ける プレゼンテーションとは何かを学ぶ
12	プレゼンテーション②	プレゼンテーションを実践する フィードバック
13	インフルエンス	どのような構造でインフルエンスされているのかを学ぶ SNSのトレンドと傾向を知る
14	成績評価②	理解度の確認
15	総合授業	これまでのまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	パーソナルスタイル		
必修選択	選択	（学則表記）	パーソナルスタイル		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	自分史上最高のキレイが手に入る「顔」タイプメイク		出版社	かんき出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	顔のパーツを最も美しく引き立てるメイク・理論を習得する
到達目標	様々な顔タイプの知識を習得し似合うメイクを診断できる 美容現場でお客様へのアドバイス材料の一つとして提案ができるようになる
評価基準	テスト・小テスト：70％　授業態度：10％　提出物：20％
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	カラーコーディネートⅠ
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員		実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 導入	担当教員自己紹介・前期授業の方向付け、履修目標・評価基準について
2	顔タイプ診断とは	顔タイプ診断について学ぶ
3	似合うメイクについて	似合うメイクについて学ぶ
4	顔タイプ「キュート・フレッシュ」	顔タイプ「キュート・フレッシュ」について学ぶ
5	キュートのメイク法	キュートのメイク法について学ぶ
6	フレッシュのメイク法	フレッシュのメイク法について学ぶ
7	顔タイプ「フェミニン・クール」	顔タイプ「フェミニン・クール」について学ぶ

8	フェミニンのメイク法	フェミニンのメイク法について学ぶ
9	クールのメイク法	クールのメイク法について学ぶ
10	ケーススタディ	診断実演を行う
11	自己診断（パーソナルカラー含む）	自分の顔タイプ・パーソナルカラーを診断する
12	個人ワーク　成績評価①	自分の顔タイプ結果をコラージュ作成する
13	メイクの実践	メイクを行う
14	テスト　成績評価②	テストを実施し理解度の確認を行う
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	ビューティーフード		
必修選択	選択	（学則表記）	ビューティーフード		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	15
使用教材	完全菜食があなたと地球を救う ヴィーガン(教員のみ)		出版社	ロングセラーズ	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	美容と健康に効果的な食の伝統と知識・食事法を理解する
到達目標	ヴィーガンを理解し、食事メニュー構成が出来るようになる
評価基準	テスト・小テスト：70%　授業態度：10%　提出物：20%
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	栄養学Ⅰ・栄養学Ⅱ
備考	原則この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 導入	担当教員自己紹介・前期授業の方向付け、履修目標・評価基準について
2	ベジタリアンとヴィーガンの歴史	ベジタリアンとヴィーガンの歴史について学ぶ
3	ベジタリアンとヴィーガンタイプ	ベジタリアンとヴィーガンタイプについて学ぶ
4	肉食のデメリット・菜食のメリット	肉食のデメリット・菜食のメリットを学ぶ
5	菜食の生活習慣予防効果	菜食の生活習慣予防効果について学ぶ
6	テスト　成績評価①	テストを実施し理解度の確認を行う
7	日本のヴィーガンの歴史	日本のヴィーガンの歴史について学ぶ

8	ヴィーガンに不足する栄養素とは	ヴィーガンに不足する栄養素について学ぶ
9	日本菜食「雑穀」について	日本菜食「雑穀」について学ぶ
10	砂糖の影響	砂糖の影響について学ぶ
11	七つの食習慣と5つの基本と七つのキーフード	七つの食習慣と5つの基本と七つのキーフードについて学ぶ
12	テスト　成績評価②	テストを実施し理解度の確認を行う
13	個人ワーク	個人ワークを行う
14	プレゼン準備	プレゼン発表の準備を行う
15	プレゼン発表と総まとめ　成績評価②	プレゼンの発表と総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	サロンワークⅠ－F		
必修選択	選択	(学則表記)	サロンワークⅠ－F		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	JNAテクニカルシステム ベーシック／アドバンス／ジェルネイル ネイル用具一式		出版社	NPO法人日本ネイリスト協会	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	実際のサロンでのお客様対応や施術を学び、トラブルの回避を自身で考え対応でき、実践を通して技術を習得する		
到達目標	お客様に施術などの説明ができ、満足の頂ける技術及び接客が出来る		
評価基準	授業態度他20％・接客態度他40％・技術レベル40％		
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者		
関連資格	JNAジェルネイル検定初級・JNECネイリスト検定3級		
関連科目	ネイル教科全般		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員		実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	３級検定実技	３級検定に向けて、最終練習
2		
3		
4	導入　サロン運営とは	カウンセリング・プロとしての身だしなみ・心構え・言葉遣い・
5		道具の管理・予約票・カルテ管理・集客方法(SNS活用)など
6	バーチャルサロン準備	グループに分かれてバーチャルサロンを立ち上げる
7		
8	バーチャルサロン	グループ発表 教室をサロンに見立ててシミュレーション

9	サロンワーク技術	ジェルアートサンプル作り
10		
11		バラフィン・トリートメントについて
12		
13		模擬サロン・ロープレ
14		
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	インターンシップⅠ－Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	インターンシップⅠ－Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	トータルビューティー科	1	45
使用教材	インターンシップ手帳		出版社		

科目の基礎情報②	
授業のねらい	美容に携わるお仕事スタッフとして必要とされる社会人基礎力を身に付ける
到達目標	・社会人として必要な基礎スキルが身に付いている ・相手の立場に立った物事の考え方ができる ・社会へ出てから必要な言葉遣いや接客マナーを実践できる
評価基準	①企業側評価75%(評価表にて採点) ②学校側評価25%(レポート提出にて採点)
認定条件	・実質時間数が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者
関連資格	
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	
実務経験	
実務内容	